

# (株)ヤクルト本社の男性育児休業 取得者本人&上司インタビュー

## 当社の取り組み

ヤクルト本社では、多様な働き方やダイバーシティの推進はイノベーションを生み出すために必要不可欠なものと考え、男性育児休業（以下「男性育休」）を推奨しています。最近では、“仕事も子育てもどちらも充実させたい、どちらも楽しみたい”“今しかない子どもの大切な成長過程を近くで見守りたい”“産後のママをサポートしたい”、また、“仕事から少し離れることで、別の視点を持つことができ、将来の仕事に役立つ”といった価値観をもつパパたちが増え、育休を積極的に取得する男性社員も増えています。

## 男性育休インタビュー

男性育休を取得した社員とその上司にインタビューをしました。取得した社員には、実際に「取得してみたの感想」「取得に向けてどのような準備をしたのか」を聞きました。また、上司にはメンバーの男性育休を取得する際の「準備や声かけ」「課内での男性育休取得推進の環境づくり」について聞きました。

## インタビューした社員

### ・宅配営業部宅配企画課

取得社員：立石 拓也 主任

上 司：大森 久貴 課長

### ・兵庫三木工場品質管理課

取得社員：今堀 泰伸 係長

上 司：田中 真幸 課長

※ 所属・役職はインタビュー取材時点（2022年12月）のものです。

# 男性育児休業 取得者本人&上司インタビュー

## 宅配営業部宅配企画課 立石 拓也 主任

### 育休を取得したきっかけ

～妻のサポート、子どもと濃密な時間を過ごすために～

妻が妊娠している時に身近な男性先輩社員が育休を取得していたことや、子どもが生まれる男性社員に育休取得の意思を確認する会社の取り組みが始まったことを知りました。そのような周囲の影響もあり、**妻のサポートはもちろん、子どもと濃密な時間を過ごすためにも育休を取得したいと思ったのがきっかけ**でした。

### 育休取得前に準備したこと

～育休開始日までに自分一人しか知らない仕事を再確認～

4月から課内の所属チームが変わったこともあり、**育休開始の3か月前にチームリーダーやメンバーに相談したうえで上司に相談しました**。私自身が新しい業務をこなすことに労力を費やしたため、本格的に引き継ぎを開始したのは育休開始の1か月前からです。

私が意識したことは**育休開始日までに自分一人しか知らない仕事がないか再確認**することです。ただ、チームが変わって間もないということもあり、そのような仕事は少なく、その点では幸運であったと思っています。

実際に行ったことは、**自分自身の業務をチームメンバーと一緒にやり、これまでの経緯や今後の進め方を共有**しました。

### 立石主任の育休取得前スケジュール

- 取得3か月前** ● チームリーダー、メンバーに事前相談  
上司に相談
- 取得1か月前** ● 業務の引き継ぎ  
(自分一人しか知らない仕事がないか確認)
- 子ども誕生** ● 子ども(第一子)の誕生
- 育休開始** ● 子ども誕生の25日後に、育児休業開始(14日間)



## 育児で大変だったこと

### ～体力的・精神的な負担は想像以上～

やはり、泣きやませるための抱っこ、おむつ交換、沐浴です。

どれも思っていた以上に体力を使い、特に泣きやませることに限っては、思うように泣きやんでくれないこともあり、それが続くと精神的にも**疲れ**ました。いろんな歌を歌いながら家中を歩き回っていたことが今となっては懐かしいです。

妻はこれらに加え、授乳もあるため、「**体力・精神的にとっても大変だな**」と実際に育児を体験したことで、強く実感しました。



## これから育休を取得される方へ

### ～育休は「家族優先」を実現する絶好の機会～

子ども誕生の報告をした際に、「**職場の人間はいつかの付き合いだが、家族は一生の付き合い。だからこそ、これからは家族優先で考えなさい**」という上司の言葉が今も強く記憶に残っています。**男性育休を取得することで、妻にも喜ばれますし、子どもへの愛情もよりいっそう深まります。家族優先を実現する機会の一つが男性育休を取得することだと私は思います。**

## 上司（大森 久貴 課長）に聞く！ 部下の育休休業にどのように配慮しましたか？

私自身も育休を取得したので、**特別なことと感**じておらず「しっかり、取得していいよ」と伝えました。また、私自身も育休を取得して、**育児に集中できる良い機会だったので、その体験を伝えました。**日頃から**週に1度チームミーティング**等で密に**情報共有**を行っているため、**問題なく業務の引き継ぎ、役割分担**ができました。育休取得後も、チームメンバーが「立石さんには小さな子どもがいる」という認識を持っているため、急な休みなどへのサポート体制が整っています。





# 男性育児休業 取得者本人&上司インタビュー

## 兵庫三木工場品質管理課 今堀 泰伸 係長

### 育休を取得したきっかけ

～長男の新生児期が寝不足だったため、次男(第二子)で取得を決断～



長男の新生児期、夫婦そろって寝不足がひどかったため、二人目は育休を取りたいと思っていました。遠方のため両親の支援が受けられないこと、妻が出産後2週間ほど外出できないことなども理由に挙げられます。部署において、周囲の理解もあり、育休が取りやすい風土が醸成されていることも決め手になりました。

### 育休取得前に準備したこと

～育休取得の半年前から上長に相談し、計画的に準備！～

上司には育休取得のおよそ半年前に相談しました。日常業務については、普段から課内でフォローし合える体制が取られていたので、引き継ぎは意外とスムーズに行えました。

#### 今堀係長の育休取得前スケジュール

- 取得6か月前 ● 上司に相談
- 取得2か月前 ● 上長から課内のメンバーに周知  
情報共有・引き継ぎ開始
- 取得1か月前 ● 細かい連携、会議などの代理出席を依頼
- 育休開始  
子ども誕生 ● 子ども誕生の2日前から育児休業開始(34日間)



### 育休取得をしてよかったこと

～次男が生まれて長男の成長を見ることができた～

妻の入院中や出産後、私が家事を担当したのですが、個々の家事は普段からやっても、全部まとめて担当することは初めてでしたので、いい経験になりました。長男の時は、私も妻も寝不足に悩まされていましたが、今回は、夜中に交代しながら育児をしたことで、交互に睡眠時間を確保することができました。

また、次男が生まれた後に、長男はお兄ちゃんとしての自覚が芽生え、急にしっかりとしてきて、その様子を間近で見ることができて嬉しかったです。



## これから育休を取得される方へ

～育児は、わからないことだらけ。少しでも家族の支えに！～

長男の時は夫婦共々わからないことだらけでストレスが溜まりがちなので、そんな時こそ、1週間だけでもいいので、育休を取得して家族のそばにいてほしいと思います。

## 上司（田中 真幸 課長）に聞く！ 部下の育休にどのように配慮しましたか？

取得の相談を受けたとき、どう思いましたか。

～育児はワークライフバランス実現に必要なもの～

当課の男性育休については、2021年度3名、

2022年度3名（12月末時点）が取得しています。昨今の

ワークライフバランスの実現に向けた働き方改革を推進していくなかで、

男性育休取得は、本人やその家族において必要なものの一つである

と認識しているため、相談を受けた際は、積極的に取得するよう促しています。

どのような準備をしましたか。

～単位業務を複数名で実施・フォローできる体制の構築～

当課においては、2021年度から業務の多能工化を推進しており、単位業務について

複数名で実施・フォローできる体制が構築できています。また、育休を取得する2か月前には、

課内メンバーに周知し、育休取得について情報共有することに加え、メンバーの育休に向けた

準備（本人が担当している業務の引き継ぎ）についても早めに行うことで業務に影響が

出ないように配慮しています。

育休を取得することで、課内に良い変化はありましたか。

～協力体制の強化と育休を取得しやすい風土の醸成～

育休を取得することで、本人は、夫婦で協力し合い一生に

数度しかない貴重な育児の時間を家族とともに穏やかに過ごすこと

ができます。また、育休後はリフレッシュした気持ちで業務に

向き合うことができ、本人のモチベーション向上にもつながると考えます。

また、職場において、育休中は、周りのメンバーが協力・フォローし、

業務進捗に影響が出ないように工夫することで、メンバーの連携・協力

体制の強化および育休を取得しやすい風土醸成が図れている

と思います。



※写真撮影のため、マスクを外しています。